

(6) 北 陸



北陸地域では、景気は持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産は増加傾向にある。
- ・ 個人消費は緩やかな持ち直しの動きが続いている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

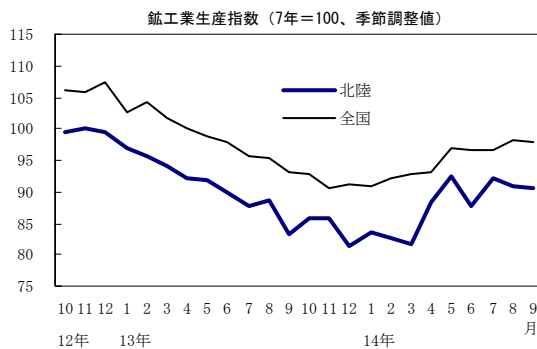
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 14 年 8 月)	今回 (平成 14 年 11 月)	
総括表現	下げ止まっている	持ち直しの動きがみられる	↑
個人消費	このところやや持ち直し	緩やかな持ち直しの動きが続いている	↑

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は増加傾向にある。

金属製品は、アルミ建材で首都圏の再開発事業に伴うビル用が底固く推移しているが、住宅用が引き続き低調であり、弱含みとなっている。繊維は、衣料用外需で中国向けを中心に減少し、内需でも、低価格輸入品との競合、衣料品販売の減少等により引き続き低迷しているものの、カーシート等の自動車内装材が堅調に推移している。電気機械は、生産の増勢は幾分鈍化しているものの、DVD関連機器向けや自動車向けの半導体集積回路が堅調に推移し、全体でも増加している。一般機械は、繊維機械が中国向け受注により高水準を維持しているものの、建設機械が内需の低迷が続いていることから減少傾向にあるなど、全体では一進一退となっている。化学は、医薬品が持ち直し、医薬部外品もドリンク剤を中心に堅調に推移しており、全体で増加傾向にある。



(備考) 平成 14 年 9 月の北陸は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

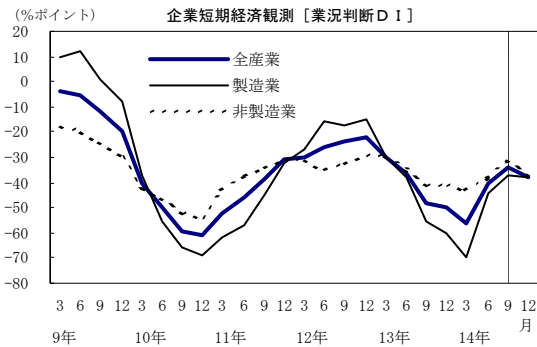
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
金属製品	15.6	4.6	▲2.0	—	—
繊維	15.3	▲3.7	1.8	—	—
電気機械	14.6	27.2	6.2	—	—
一般機械	13.2	15.3	▲4.6	—	—
化学	11.3	5.9	2.9	—	—
鉱工業	100.0	8.2	2.0	—	—

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

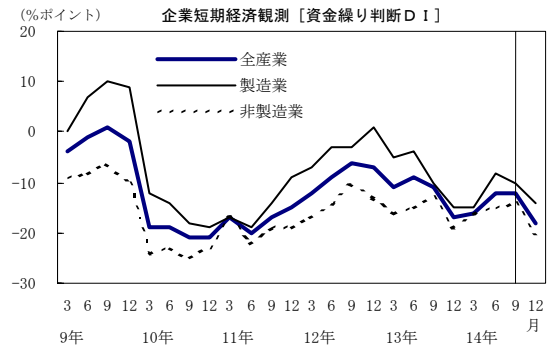
2. 7~9月期は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。

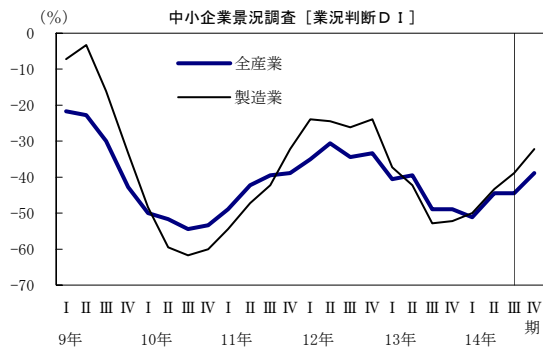
企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考) 「良い」 - 「悪い」 回答者数構成比。12月は予測。



(備考) 「楽である」 - 「苦しい」 回答者数構成比。12月は予測。



(備考) 「好転」 - 「悪化」 回答者数構成比。14年IV期は見通し。
中部地区のD I。

景気ウォッチャー調査 (10月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「全体として、引き合い、受注決定ともに輸出は若干弱含み、国内は若干強含みで、前月とほとんど変わっていない (一般機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

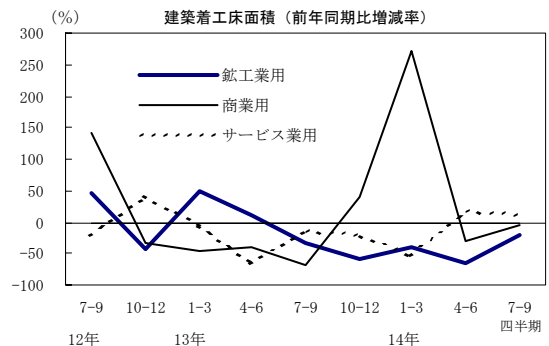
(3) 設備投資の14年度計画は前年度実績を下回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (9月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	13年度実績	14年度計画
全産業	▲14.0	▲13.4 (▲2.1)
製造業	▲17.2	▲22.6 (▲6.8)
非製造業	▲6.7	5.1 (5.8)

(備考) () は前回 (6月) 調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかな持ち直しの動きが続いている。

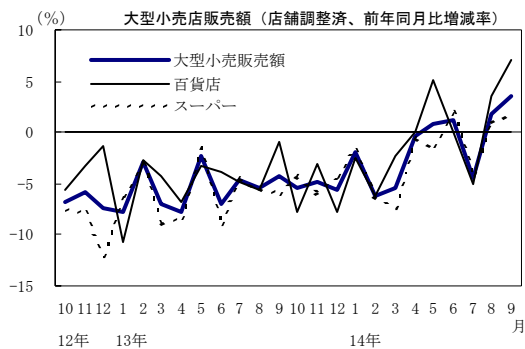
大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、7月は天候不順から夏物処分セールが盛り上がり方を欠いたこと等から衣料品を中心に振るわず、前年を下回った。8月は猛暑の影響から肌着等の夏物衣料に盛り返しの動きがあり、清涼飲料水等を中心に飲食料品も底固く推移したため、前年を上回った。9月は、一部百貨店のブランド店の新装オープン効果などもあり、衣料品、飲食料品ともに好調で、2か月連続で前年を上回った。

スーパーは、7月は飲食料品等が底固く推移したものの、衣料品が婦人服を中心に低調であったため、前年を下回った。しかし8、9月は飲食料品が引き続き好調で、身の回り品等が堅調に推移したことから、連続して前年を上回った。

景気ウォッチャー調査（10月調査）[家計動向関連D I（現状判断）]

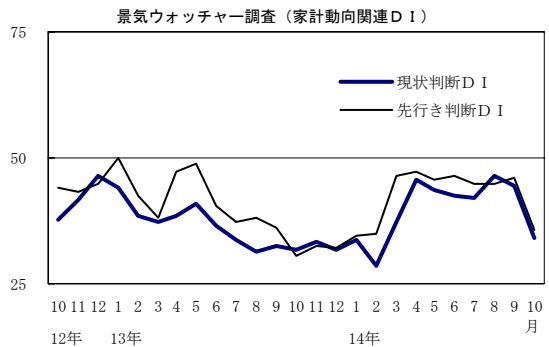
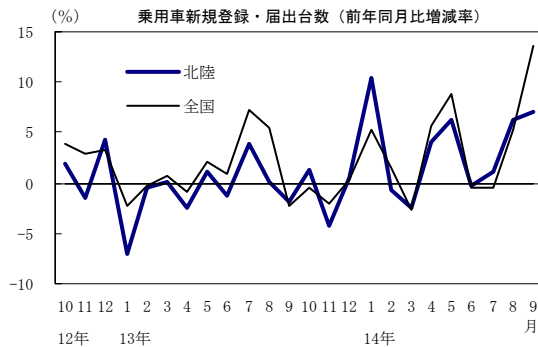
「来客数は月ごとに減少し、客単価は依然下がったままである。客は余分な物を買わないため、一人当たりの買上点数も増えていない（スーパー）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



(前年同月比増減率、単位：%)

	13年10-12月	14年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	▲5.4	▲4.3	0.6	▲0.1
百貨店	▲6.4	▲3.5	1.7	0.7
スーパー	▲4.8	▲4.7	0.0	▲0.6
乗用車	▲0.9	▲0.1	3.1	4.6
景気ウォッチャー	32.2	33.2	44.0	44.4

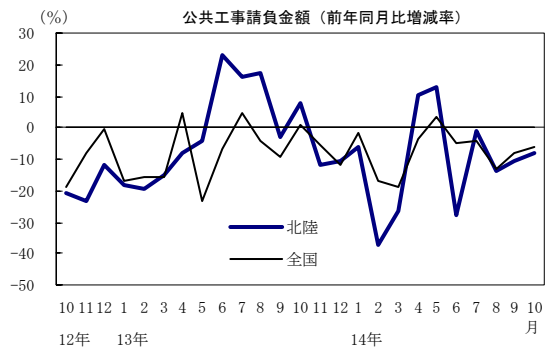
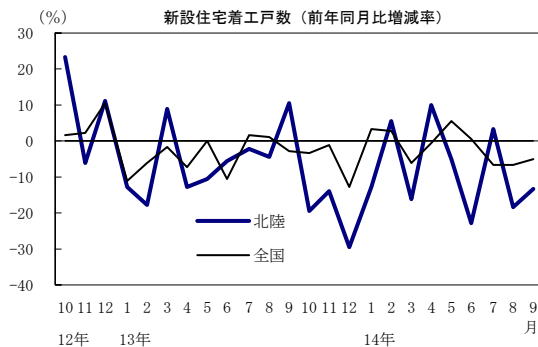
(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は減少している。

持家が前年をわずかに上回ったものの、貸家、分譲が前年を下回っていることから、全体では減少している。

(3) 公共投資は年度累計で見ると前年を下回っている。

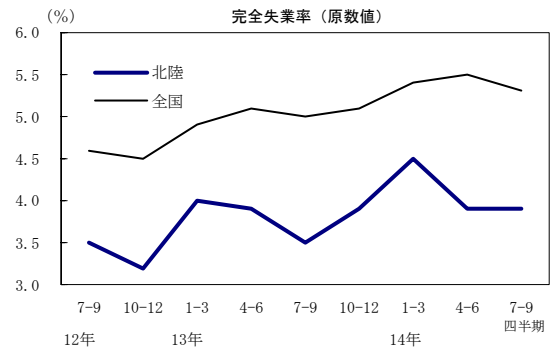
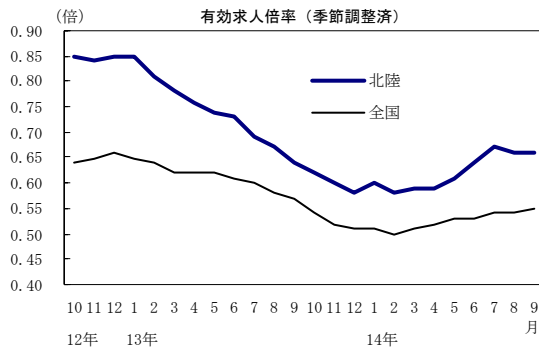


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はこのところ横ばいで推移している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (10月調査) [雇用関連 (現状判断)]

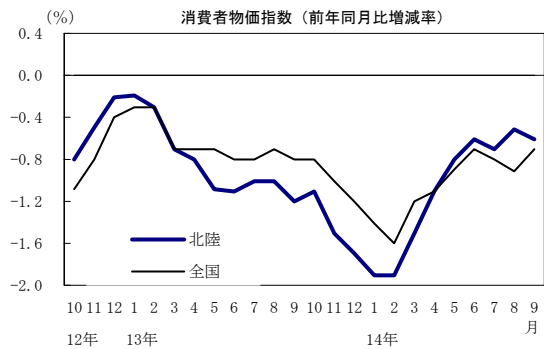
「新規求人増加傾向は産業全般に広がっているものの、依然として短期的需要による臨時、パート求人の割合が多い(職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数は下落幅がおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	13年10-12月	14年1-3月	4-6月	7-9月	10月
倒産件数 (前年比)	115 ▲16.7	127 24.5	116 3.6	148 24.4	45 28.6
負債総額 (前年比)	178 ▲40.2	459 103.5	328 20.7	649 117.9	104 108.7



○ 景気ウォッチャー調査 (10月調査) [合計D I (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・地域スーパーの競合がますます激化している。他店の折込チラシでも従来4割引が主流であった冷凍食品の価格が5割引に拡大し、それ以外の商品でも低価格化が進んでいる(スーパー)。

<先行き>

- ・大河ドラマ放映の効果一巡による観光客の減少により、客室稼働率は前年並みと予想されること、また婚礼宴会の受注件数が伸びていないことなどにより、収入は前年を下回る見通しである(都市型ホテル)。

